

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101843		
法人名	ケアあおもり てるてるぼうず		
事業所名	グループホームてるてるぼうず		
所在地	青森市高田字川瀬334-5		
自己評価作成日	平成30年11月2日	評価結果市町村受理日	平成31年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域の行事に積極的に参加し、入居者様に交流の場を設けるようにしています。                  ・全職員が生き生きと働いて、良い環境の中で入居者様が過ごせるように力を入れている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域と積極に関わりを持ち 家庭的な雰囲気の中で 自分らしく健康で明るく楽しい 日常生活を送れるよう お手伝いいたします」というホーム独自の理念を掲げており、行事への参加や外出等で地域住民と関わりながら、日々の支援に努めている。                  また、協力医療機関や訪問看護ステーションと連携を図り、利用者がその方らしく暮らし続けることができるように支援している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成30年12月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週1回、月曜日の朝礼時、職員で理念を唱和しており、内容も理解している。また、職員の見える位置に理念を掲示し、理念に沿ったケアができるように心がけている。	開設当初からの理念は職員が話し合って作成したホーム独自のものであり、ホーム内への掲示や唱和等により共有している。職員は利用者が地域と積極に関わりを持ち、自分らしく生活していけるよう、日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や小学校、児童館の行事へも積極的に参加している。ホームの納涼祭では近隣住民に呼びかけ、たくさんの方の参加を得ているほか、行事でも町内の婦人会のフラダンスや伝統の獅子踊り等の訪問があり、入居者様の楽しみとなっている。	町内会に加入し、普段から積極的に地域と関わるように努めている。ホームでは地域の小学校や児童館と交流を図っており、玄関には「子ども110番」のステッカーも掲示している。また、町内会行事である盆踊りやねぶた、敬老会等に参加すると共に、ホーム主催の納涼祭は多くの地域住民も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方が面会に来た時や町内にある美容室の方が来所した時等、関わり方について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ホームの行事や予定等を報告し、外出時や行事等で写した写真を観覧して、話題は限定せずに意見交換を行っている。また、自己評価及び外部評価結果も報告している。	行政職員や家族、町内会長、婦人会会長、民生委員、市民センター分館長、児童館館長等が委員となり、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議ではホームの状況や行事、研修、認知症指導計画等を報告しているほか、認知症カフェに関する事等を話し合い、委員から出された意見をより良いホームの運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市等からの連絡には素早く対応している。また、ホームからの情報も早急に伝えるようにしている。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員の参加を得ており、ホームの実情を理解していただいている。また、その都度、報告や相談を行い、利用者の生活の質を高めるための課題解決に向けて、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を全職員が理解しており、皆で過ごす時間を多く持つように心がけている。居室の開閉等、音には素早く対応できるように、全職員が心がけている。	身体拘束に関するマニュアル等を整備しているほか、カンファレンスや内外の研修等で理解を深め、身体拘束を行わない姿勢で日々の支援に取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、家族の同意を得て、経過観察の記録を残す体制を整えている。また、近隣住民から協力を得られる関係を構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を設けている。虐待することがないように、また、職員の心が健康でストレスを溜めないよう、指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら、口頭にて説明を行っている。自立支援に関する事項やそれに伴うリスクについても十分な説明を行い、同意を得た上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や電話連絡の際、不満や不安、要望はないか聞いており、要望にはできる範囲で対応している。	運営推進会議等への参加により、利用者や家族が外部に意見を出せる機会を確保している。ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記しているほか、玄関に意見箱を設置したり、ポスターを掲示する等、意見を出しやすい環境づくりを行っている。また、毎月便りを送付し、利用者一人ひとりの近況を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が1対1で面談する時間を設けているほか、面談以外にも職員より意見等があった際は聞いている。月1回、管理者ミーティング時に話し合い、反映させている。	管理者参加のユニット会議やカンファレンス等で活発に意見を交換すると共に、個別面談等、職員の意見や相談を聞く機会も設け、職員の意見や提案が反映される仕組みを整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与は人事考課を取り入れ、職員個々の評価が反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加する機会を設けている。職員が個々に設定した目標に向かってスキルアップに努めている。管理者ミーティング時に全職員の状況を報告し、話し合い、評価をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を設け、情報交換に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況や本人の思いを受け止め、入居者様の訴えに対しては傾聴し、安心感を高めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に今までの生活状況や心身の状態の聞き取りを行い、問題となっている事や要望を明確にし、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを見極め、入居者様本位のサービスが受けられるように考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事に着目し、職員と共に行うことで入居者様より学ぶ事もあり、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、状態の変化等、連絡や相談を行い、協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等を通じて、関係を継続していただいている。	利用者がこれまで関わってきた方との交流を維持できるように、年賀状の代筆や電話を取り次ぐ等の支援をしている。また、墓参りやドライブ、昔買い物に行っていた商店等、馴染みの場所に出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングで過ごすことが多く、入居者様同士の相性の良さを客観的に見ており、孤立する入居者様がないように支え合っている。また、相性の良い入居者様同士、リビングでの交流が見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話相談にて対応している。入居後、症状に改善が見られ、再契約に至った入居者様もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望やご家族の思いの把握に努めており、その人に合った支援を心がけている。	日々のコミュニケーションの中から、利用者の思いや意向の把握に努めており、十分に把握できない場合は家族や関係者から情報を得て、全職員で情報を共有し、利用者の視点に立って意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなるご家族からの情報のほか、以前利用していた施設や病院からの情報等を全職員で共有し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを全職員で把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様からの聞き取りやご家族の意向、全体のカンファレンスで話し合った事を反映させ、介護計画を作成している。	日々の関わりの中で可能な限り利用者の意見を聞くように努め、カンファレンスやユニット会議で全職員の意見や気づきを基に話し合い、介護計画を作成している。また、必要に応じて家族や関係者の意見や気づきも反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況をチェックし、職員の関わりの様子や特変のあった時の言動、行動を記録して、職員間で確実に申し送りを行い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望を実現させるため、買い物やドライブ、様々な外出等を行っており、個別の外出も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事や小学校、児童館の行事等に参加している。月1回、本の読み聞かせのボランティアの来所があり、入居所様も楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の往診を活用し、突発的な受診にも対応している。入居者様やご家族の要望により、他の医師による診察にも対応している。	訪問看護や協力医療機関からの往診があることを伝えると共に、入居前から受診している医療機関や希望する医療機関を受診できるように支援している。また、通院方法や受診結果の連絡方法等は利用者や家族の納得を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診契約者、往診担当の看護師と24時間体制での支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活の留意点等、適切な情報提供に努めている。また、医師と相談しながら、早期退院に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時、ホームでできる事やできない事を説明し、了承を得ている。また、ホームとしての方針を全職員が共有している。	「看取り介護に関する指針」や「看取り介護についての同意書」等を作成してホームの方針を明確にしておき、利用者の重度化や終末期の対応について入居時に説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を取得した職員による内部研修を通して、内容を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通し、地域住民から協力を得られるような関係作りを行っている。	年2回、地域の消防団の協力を得て、職員と利用者が一緒に避難訓練を行っている。また、災害発生時に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議で働きかけを行っているほか、災害発生時に備えて、食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様は大先輩であると尊重し、敬う気持ちを忘れず、傾聴や優しい対応を心がけている。また、守秘義務や個人情報の取り扱いについても配慮している。	職員は利用者を尊重し、丁寧な対応を心がけているほか、個人情報の取り扱いや利用者のプライバシーに配慮して業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、入居者様の要望等を聞いたり、自己決定できるような場面を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の役割や楽しみ事を入居者様一人ひとりのペースで行えるように努めている。1日の流れのスケジュールは職員が決められているが、無理には勧めず、精神状態にも配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している入居者様は自由に着こなしをしていただき、介助の必要な入居者様には天候や行事等を考慮し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は職員と共に楽しみながら食べている。入居者様の食べたいものを聞き、献立に取り入れている。また、準備や片付けも個々の状態に合わせて、共に行っている。	献立はホームの栄養士が作成しており、利用者の好みや苦手な物、食事形態、代替食の提供等に配慮しているほか、誕生会や行事食には利用者の希望を取り入れている。また、利用者は茶碗拭き等を行っているほか、食事は利用者と職員と一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量や水分量を確認し、記載している。献立は栄養士が作成しており、健康への配慮している。また、季節の行事食等、様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自立している方には確認と舌のケアを声がけしている。介助者は自力で行える部分以外は職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴え時はトイレ誘導をしている。入居者様の状態を観察した上で、安全を考慮し、職員2名で介助することもある。紙オムツ着用の方は排泄パターンを記録している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、パターンに応じて声がけや事前誘導を行う等、自立に向けた支援を行っている。また、紙オムツの使用等についてはカンファレンスで話し合い、見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態や回数、量、水分摂取量を記録して、職員間で共有している。食物繊維を多く摂り入れた食事を提供し、健康に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	基本的に入浴は決めているが、希望があれば、毎日入浴やシャワー浴が行える体制を取っている。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションの中から、利用者の入浴習慣や好みを把握しており、基本的に週2回、午前中に入浴としているが、希望があればその他にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせて、本人の落ち着いた場所で休息や臥床していただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤カードを添付し、いつでも確認できるようにしている。不明な点があれば、薬剤内容も薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々に合った役割を提供している。また、1対1で散歩に出かけたり、ドライブへ出かけたり、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、町内散策等、入居者様の希望に沿えるように努めている。ご家族からも協力を得て、外出する機会を設けている。	天気の良い日は散歩に出かけたり、ドライブやユニット毎の夕食、桜や紅葉見学等に行き、利用者の気分転換を図っている。また、通院時を利用しながら、利用者一人ひとりの希望に応じて個別に対応し、できるだけ外出機会を多く設けているほか、家族等の協力を得たり、ホーム行事の納涼祭や敬老会、クリスマス会等の開催案内も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族の協力も得て、小額のお金を持っている入居者様もいる。買い物等、お金の受け渡しは見守り、声がけにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、スムーズに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節を感じられる装飾を行っている。2ユニット違う装飾であるため、楽しみにしている入居者様もいる。また、入居者様にも協力してもらい、ほとんど手作りの物を装飾している。	和室の談話室に懐かしい家具を置いたり、リビングにはソファを置く等、家庭的な雰囲気づくりを行い、利用者がゆったりとくつろげるようにしている。また、ホーム内は適切な明るさや温度・湿度を保ち、季節感のある飾り付けも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士、お互いの居室へ行き来したり、リビングにて過ごしたり、様々な形でコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品を居室に持ち込み、自由に使用していただくよう、入居時からご家族へ働きかけている。	利用者にとって居心地の良い居室となるよう、入居前から使用していた物の持ち込みを働きかけており、居室にはテレビや家族写真、位牌、ぬいぐるみ等を持ち込んでいる。また、持ち込みが少ない場合には利用者の意向を確認しながら、一人ひとりに合った居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かりやすいよう、職員手作りの表札を入口に飾っている。		